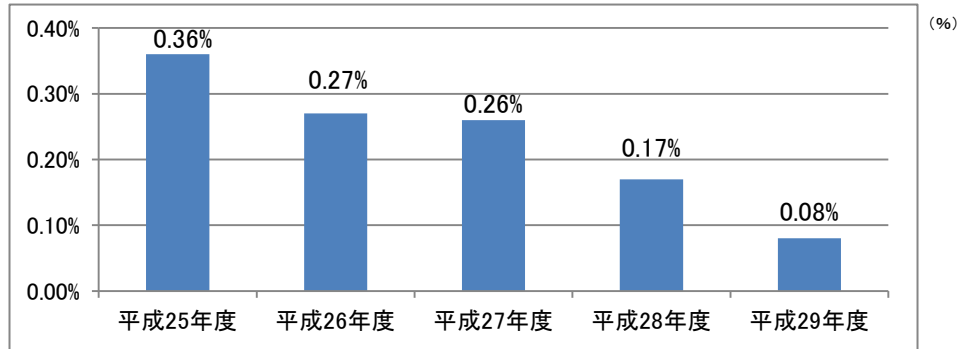


## 22 褥瘡発生率

### ○項目の解説

入院中に発生した褥瘡(床ずれ)は、患者のQOLを低下させ、入院の長期化につながることもあります。予防可能な褥瘡については、適切な診療やケアにより発生を回避できます。当該指標は予防への取り組みとその効果を示す指標です。

### ○当院の実績



### ○当院の自己点検評価

新規の褥瘡発生は減少傾向を維持しています。当院では重篤な大血管及び末梢血管の閉塞性疾患症例が多いことが特徴であり、これらは褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定要件でもあることから、特に予防介入に力を入れています。褥瘡対策チームでは、褥瘡回診や毎週のカンファレンスを通して各部署へ予防実践、指導を行っています。また、専従の皮膚・排泄ケア認定看護師は、褥瘡について報告のあった症例ごとにアセスメントの視点と解説を病棟スタッフへ伝え、その都度発生原因と予防管理方法について確認しています。各部署の褥瘡リンクナースの教育にも力を入れており、定期的に学習会を実施しています。現在はリンクナースが主体で自部署の褥瘡管理が行えるよう環境調整と伝達講習サポートを実施しています。また、手術部での褥瘡発生について、部署スタッフと共に重点的に取り組みを継続しています。これらの結果、各部署での褥瘡に対する意識が向上し、発生率の低下につながっているものと考えます。

### ○定義

当該年度1年あたりの褥瘡発生率(入院してから新しく褥瘡を作った患者数の比率(%))です。

※褥瘡の定義:「DESIGN-Rでd2以上(深さ判定不能含む)、あるいはNAUAPの分類にてステージⅡ以上(判定不能含む)に該当する褥瘡」

### ○算式

分子: 新規褥瘡発生患者数

分母: 年間入院患者数